

イノシシ被害が激減

農業技術振興センター革新支援部

【普及活動のねらい・対象】

野生鳥獣による本県の農作物被害額は約 1.3 億円で推移し、約 6 割がイノシシによる水稻の被害となっています。被害が収まらない原因には、既存の防護柵の強度不足や施工不良があります。また、防護柵の補修作業には、多額の経費がかかることから、破損個所が放置されている柵も見受けられます。

そこで、水稻への被害を恒常的に受けている中山間地域の営農組織を対象に、安価で施工が容易な目隠し資材の設置を提案し、イノシシ被害の軽減対策に取り組みました。

【普及活動の内容】

昨年度甲賀市の S ファームで実証した「目隠し資材による侵入防止対策」について、今年度は安価で施工し易い 4mm 目の防風ネットを用いて、イノシシ被害の軽減を実証しました。

県内 4 か所の実証ほを設置し、被害を受けやすい水稻晩生品種での侵入防止効果と、強風に対するネットの耐久性および既存メッシュ柵への影響について調査を行いました。

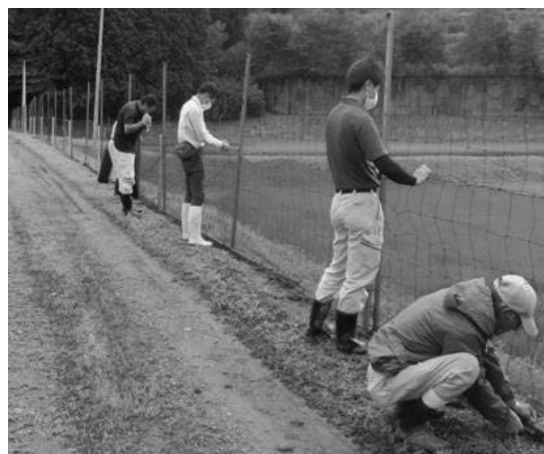


写真 資材設置作業の様子

【普及活動の成果】

県内 4 か所の実証ほについて、稲の出穂期から収穫期まで侵入状況を調査したところ、いずれのほ場もイノシシの侵入被害や柵の破損は見られず、強風への耐久性も確認できました。

また、侵入防止効果を実感された甲賀市 G 集落では、自主的に目隠し資材を追加して設置されました。

その他にも、目隠し資材を設置する取り組みは県下 10 か所以上に広がりました。

当センターでは、引き続き侵入防止効果および耐久性の検証を行うとともに、設置方法の改良を行い、獣害研修会等を活用して同技術の普及を図っていきます。

◎対象者の意見

イノシシ被害は農作物への直接的な被害に加えて、柵の補修や水路の泥上げ等に手を焼いていた。目隠し資材は安価で施工が簡単なのですぐに取り組みして今のところ被害も抑えられている。100%の効果は期待していない。被害が軽減すればよい（集落代表）。